後 60 年を経てもなおその不幸な出来事が尾を引いている恨みと悔やみは筆舌に尽くしがたい悲しみである。

昭和 20 年の大東亜戦争終戦の年に生まれた拙僧は朝鮮半島の植民地支配者ではないし、そのようなことも情報として知るのみであって、直接の当事者ではない。本年還暦の 60 年を迎え、佛縁ある韓国から拙僧のもとに来た多くの真摯な留学生も戦後生まれであって、過去の恩讐を切り捨てて新しい世代として世界平和に寄与しなければならない立場にある。ところが、最近の韓国に国粋主義が盛んとなり、戦前日本に留学した先師たちが、日本に留学したという理由で糾弾の矢面に立たされているのを知って、非常にやりきれない気持ちで一杯である。母国を忘れる忘恩の民がどこにあろうか。戦前の朝鮮留学生たちはみなその成果を母国発展のために貢献してきたのに、死してのちに断罪されるのを見て、胸が張り裂ける思いである。毀誉褒貶はその時代の価値判断や政治判断であって、真の価値を左右するものではない。ほんの一時だけのものである。留学生たちが世情に流されることなく、「昼夜常精進」されて初志を貫徹し、一切衆生の幸せのために母国で活躍されることを願ってやまない。

今回、韓国からの留学生たちの佛教研究論叢に拙文を寄せることが出来たことは無上なる光栄である。佛教学は緻密な文献研究による、佛陀の教えについての正確な理解のためである。この学的成果と知識をもって一切衆生を苦海から救済することこそが、我々菩薩の本願であって、佛教学を自分の栄誉栄達の手段や目的としては絶対いけないのである。人格の陶冶と利他行を忘れた佛教学はもはや佛教ではないのである。

清貧のなかで日夜刻苦勉励している真摯な若き佛教留学生に釈尊のご加護と光栄あれ！

企画の辞

内外諸学者の永年の蓄積は、仏教の全てとはいえないまでも、かなりな程度まで明らかにすることを可能にした。仏教に対する学問的諸省察の中で、私が一つのアプローチをする機会を与えられ、韓国留学生印度学仏教学研究会の副会長の任に就いた。ここに論文集の第十号を刊行する運びとなった次第である。

今回の発行で第十号を向かう本論文集は、仏教学・印度哲学・仏教史学・密教学・仏教美術史など、諸分野にわたる研究業績を学際的に編集・発行することを目的としている。本会は日本東京滞在の仏教学専攻の韓国留学生らが主軸となって日韓仏教および仏教文化交流に注力してきた結果、とりわけ 2000 年 7 月刊行の第 8 号「<特集>日本における韓国仏教研究動向（蔵経閣出版）」は韓国語版に出版され、韓国文教部選定「今年度の優秀図書」に選ばれる光栄にあずかった。

本書の執筆方針として最初、特集テーマを選定し、決められた範囲内での幾つかのカテゴリでの投稿依頼を模索していたが、それは叶わなず、諸執筆者の仏教学全般に関わった多様な論文を掲載させていただくこととした。執筆者にお会いするたびに、あるいはメール等でお願いしながらも、いろいろと学業と雑務に追われ、校訂の筆はなかなか進まなかった。

日韓の仏教研究者の協力によって成った本書は一に先輩知友の暖き御援助の賜であるが、とくに校正にあたっては、大正大学の平林二郎氏、大正大学卒業生の北国知男氏を初め、多くの方々の御助力を忝けなくした。最後に本書の出版全般にわたって御世話頂き、読者と共に研究し斧正を仰ぐことを可能とされた韓国図書出版蔵経閣の圓澤師以下担当者方々に篤く御礼を申し上げたい。

2005 年 11 月

朴埈奭